

会議録

会議名		令和7年度 第1回 川西市社会教育委員の会	
事務局		市民環境部 生涯学習課 (電話 072-740-1244)	
開催日時		令和7年9月19日(金)14時30分~16時27分	
開催場所		川西市役所 7階 大会議室(北)	
出席者	委員	野崎議長、常行副議長、川野委員、倉橋委員、三善委員、升村委員、杉村委員	
	その他	テーマに係る担当所管 山守教育保育課主査、足立指導主事	
	事務局	岡本市民環境部長 寺田市民環境部副部長(環境政策・生涯学習・公民館担当) 木田生涯学習課長、山田生涯学習課長補佐、大塚主任、鷲尾主事	
傍聴の可否		可	傍聴者数 9名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		別紙のとおり	
会議結果		別紙のとおり	

審議経過

1. 開会

2. 市民環境部長あいさつ

- ・9月下旬に入ったが、残暑もきつく、暑い中出席くださり感謝する。
- ・今年度、初めての会議であるが、学校運営協議会への視察に複数回出席していただくななど、熱心な活動をしていただいていると認識している。
- ・昨年度に引き続いでの研究テーマとなる。よろしくお願ひする。

3. 自己紹介

本年4月1日付で新たに委員が就任されたこと、並びに新年度で職員の人事異動等があることから自己紹介をおこなった。

4. 報告

令和6年度第3回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「令和7年度阪神北地区社会教育委員協議会第1回研修会」(令和7年5月21日開催)
- ・「令和7年度兵庫県社会教育委員協議会研修会」(令和7年6月3日開催)

5. 議題

学校運営協議会制度への社会教育の関わり方

本年5月及び6月に実施した各学校園の学校運営協議会並びに川西市地域学校協働本部運営会議を視察したことに加え、令和6年度に協議した内容に基づき、審議報告(案)を作成し、その(案)について協議した。

(事務局)審議報告(案)を作成した。これをたたき台として協議していただきたい。

この後、担当から説明をするが、視察に行った学校や視察先の会議内容についても、資料に記載しているので参考にしていただきたい。

(事務局)令和6年度の会議でのご意見、並びに7年度の学校運営協議会等の視察において、レポートを提出していただいている。

それに基づき、審議報告(案)を作成した。

内容としては、「本市のコミュニティ・スクールの現状と課題」、「社会教育の関わり方」の2点を本文に明記し、「社会教育の関わり方」については、「地域のめざす子ども像を明確にする」、「地域学校協働活動を推進する」、「コミュニティ・スクールの拠点として公民館を活用する」、「ボランティアの育成とネットワーク化を進める」、「部活動の地域展開を推進する」の5つの方向性を示している。

それに加えて、特徴的な取組事例を「地域が学校へ出向いて取り組む事例」と「子どもたちが

学校から出て、地域の方々と取り組む事例」を記載した。

また、資料という形で会議開催日と視察内容に加え、会議及び視察の中で出された委員の皆様の意見を5つの方向性の項目毎に分けて列記した。

骨組みを説明したが、修正等、ご意見があればお願いしたい。

(議長)柱立てを先に作させていただいた。ポイントになるのは、本市は年次計画的にコミスクを立ち上げたが、中身は学校園により温度差が出ている。

そこをどう見ていくかという課題はあるが、社会教育という部分、外からコミスクをどう見るか、どう関わるかといったときに「地域のめざす子ども像を明確にする」ということになる。

各学校のめざす子ども像は、明確にある。いわゆる6年間、3年間の計画を立てて、ここまでしますというマニフェストは当然ある。それと各地区の住民達がめざす子ども像が一緒かといえばイコールではない。

地域住民にとっては、できれば地域で活動して地域で育ってほしいという思いがあるが、学校のめざす子ども像とは、少し温度差があり、学校のめざす子ども像を地域が引き取って、結局、学校の下働きみたいになってしまふ。学校のめざす子ども像に従って地域の方は取り組んでとなると、それは違うということになる。

地域としてめざす子ども像を明確にしないと、結局、学校の下働きになってしまふ。

2の「地域学校協働活動を推進する」は、地域として地域学校協働活動をどう活用していくか。

3が公民館がどう関わっていくか。公民館活動が地域学校協働活動を取り入れることによって、公民館活動の活性化にも繋がる。公民館が持っているサークルや祭りなどに小・中学生を取り込む。

川西市の強みとして中学校区に公民館があり、公民館を拠点とした地域展開ができる。

4がボランティアで、各種団体や大学生、大学はないけれども大学生はいるので、卒業生が母校を指導したりして、縦に繋げていけば地域が循環していける。

5が部活動の地域展開で、公民館を拠点として部活動の地域展開を取り込むことが出来ないかということ。

6は特徴的な取り組み事例というような構成になっている。

そうした視点で、ご意見をいただき、修正していけばと思っている。

(委員)めざす子ども像を明確にするということで、学校運営協議会の中に社会教育として関わるというところでは、わかるような気がするが、学校運営協議会を実際に行うときに学校の子ども像を出して承認していただくが、学校の子ども像に対して否定的な意見が出るのか、地域の方が学校の先生方が考えた子ども像に対してどうこう言うのが言いづらいということを考えると、どんな子どもを育てたいかを学校の子ども像を決める前に聞いてみようかと思っている。

地域の方々がどんな地域住民になっていたらいいというようなものが、中々出てこないという気もする。地域住民は、行政依存で何かやってもらえるみたいなところに浸っているので、何かしようみたいなことが出てこない。

市民も主体性を持たないといけないし、それを育む教育、常に何か自分を高めているという人を増やすために学校教育はその地域のめざす子ども像を明確にするのはいいが、付随してその地域のめざす地域像、地域住民像という言葉のほうがわかるような気がする。

(委員) 1番に関しては、子ども不在というか、権利の主体者として子どもというものを、もっと表現したほうがいいと思う。

話はずれるが、里山でのプレーパークに来ている女の子で普段は大人しいけどいい子ではなく、下の子たちと一緒に遊ぶ時は、入れたくないとか、みんなが楽しくやっているものでも、私はいいわと言って主張をする子だったが、見た感じはおとなしい。その子が大きくなって、話をしたときに学校では全然違う自分だった。言われたまま反抗もせず、友達関係も従順で強い子に従って自分を出さずに過ごしていた。しかし、プレーパークでは自分らしさを出せた。

そういう子のように、その子が特徴的ではなく、多かれ少なかれ学校教育という枠組みがあつて、到達目標が一方的に与えられている子どもたちにとって自分らしさを出せないことってあると思う。

それが、また社会教育が入り込んで学校のめざす子ども像と一緒にやりますよと言われたら、子どもたちは行きづらくなると思う。そこで、考えたのが、その地域に生きる子どもの生活ということで、「地域に生きる子どもの願いというものを明らかにする」というような表現はどうか。

それを学校に伝えることで、学校も達成目標もありながら、地域はこういう状況で、こういう思いを持っていることがわかれば、学校の方ではこう受け止めていこうという情報共有ができるのではないかと思った。

(議長) 気をつけないといけないのは、不登校の子どもだけではなく、学校では普通にしている子が実は地域に帰れば全く違うこともあるわけで、多面性もあるので、こちらが本当の自分で学校の自分は自分でないというわけではない。

(委員) この夏休みに東谷中学校区で、それぞれの学校園所の学校教育目標やめざす子ども像について交流する機会を学校園長で会談をした。

どういう思いで目標を設定しているか、その学齢期に応じて違いはあるが中学校では、卒業後のゴール、社会人、社会に出て行くところがあるが、言っていることは違うが、願いや根底は同じだろう。だから地域としても最終的に地域でこんな子どもになってもらいたい。そのためには、それぞれの学齢期に応じて、どういう目標を設定するか、めざすところはどういうところかというような違いはあっても仕方がないと思っていたが、最終的なゴールについては、各地域で同じ目標にしてもいいのかなと思う。

(委員) 先ほど、私が提案した子ども像を明確にするという切り口ではなく、子どもの願いを明らかにする、伝えていくという切り口にするのはどう思うか。

(委員) 学校運営協議会で学校教育目標を考えたりするときに、委員の中には保護者の方もおられるし、地域の方もおられる。場合によっては、生徒も学校運営協議会に参加したりということもあるので、様々な意見、立場の気持ちを汲んだうえで作っていければと思う。

(委員) 主体性というのが全てのキーワードになっている。それぞれの学校で特色を持ってめざす子ども像を決めているけれども、中学校区として子どもたちは一緒なんだから、やはり繋がりは

あるだろうということを先生達と共に理解を図って取り組む必要がある。

昨年の研修会でも学校教育の目標と社会教育が求めるところには、ズレがあったように思う。部活動の社会移行についても、地域の人は自分がそういうことを経験してこなかったから、学校の先生に見ていただく必要性が一定あるだろうと思っていた。しかし、別の視点でそこに住む市民として、ここで生きていくためには、小学校の段階から地域に密着して中学生や高校生であったり、大人世代や親世代、高齢者世代と繋がっていくことで、新たな仕組みづくりが出来て、社会教育の充実、地域のつながりという部分が培われるのかなと期待している。

あとは、親世代とかが忙しい中で引っ張っていくのか、高齢者の方も働いているかもしれないが、地域についてどのように理解してどう学んでいくのかという場、繋げていく仕組が行政に求められていくと思う。やはり、繋ぐ人材は必要だと思う。

(副議長)高齢者が子どもの時代は、家庭とか地域の人はあまり学校に口を出さないというのがあった。学校のことは学校で処理していた。

いろんな問題が今みたいに社会でないといけないというのはなかったが、時代が変わって、もう学校が持たないというところから発生してきていると思っているが、学校のめざす子ども像と地域のめざす子ども像がさっと交ざり合うことができるのかと思う。

学校の先生は転勤もあるし、その地域はどういう地域なのかをいろいろな行事を通じて知っていくときに、現在の難しい社会の中で市のことに関わってられないなど、いろいろな問題が出てるので、すぐにとはいかないが、接点を多く持って取り組むことが大切で、そのための拠点が必要で現実的なのは公民館だと思う。

地域の人たちが公民館をもっと使って高齢者の生涯学習だけでなく、子どもが来れるようなプログラムを学校の先生と協力して作ってほしい。

(議長)地域の方としては村を育てる学力、地域住民として多様な人と関わる中で多様な価値観を見つければ地域住民として頑張っていける。しかし、学校教育は夢や希望だけでは語れない。これだけの基礎学力をつければいいといけないという目標があるので、そのことは排除できない。

先ほど、委員がおっしゃった子どもの気持ちって本当に大事だが教育活動として教育目標がないと教育活動にならない。そこが難しいところだ。

(委員)2の「地域学校協働活動を推進する。」のところで、担い手がない状況となっているという考え方方が違うと思っていて、地域で子どもたちの活動の場とするというのは、子どもの豊かな育ちを考えたとき、育ちや生活を考えたとき、人と繋がり、社会と繋がることが自分を豊かにしていく。そうなれる場を作る。それがひいては地域活性化にもなるという順番が逆になっていると思う。

3の「コミュニティ・スクールの拠点として公民館を活用する」の「体験格差を生じさせないために事業を多様に実施する」のイについて地元企業も書いた方がいいと思う。

1に戻るが、学校のみがWinとか、終わりにのところで、WinWinという表現で、社会教育という価値を考えたときに、市場的な価値観、損得であったり、勝ち負けという言葉を思い浮かべるので、Winという言葉は使わない日本語に置き換えていく方がいいと思い、「社会教育が学校の教育活動を支えるという一方通行の関係性を変えていき、ともに地域に生きる子どもの育ちを

学校教育と社会教育の立場からそれぞれが活かし合いながら連携協働していく関係を作っていく」というように書けないかと思った。

5の部活動のことだが、部活動の地域展開について聞いたときに、スムーズにいっているという報告は受けたが、実際、委員のコメントを見てもまだ課題があると書かれているので、実態はどうなのか。もう少し丁寧に見ていく必要があると思う。

文化部について書かれているが、運動部はどうなるのという疑問になるのではと思った。

部活動も子どもの育ちをどうとらえるのかという根本の問題があると思っていて、今まで学校教育の一環で部活動というものを保障し、子どもの育ちに必要だということで、存在してきた。

それが学校教育という枠組みから離れていく中で、どう子どもの育ちを考えるかというのは、ここでどうこうできない部分はあるが、社会教育委員として考えて行かなければいけないことと思っている。

(議長)私見だが、部活動の指導者は学校の先生がやると地域の方がやるとでは子どもたちは違うと思う。地域は先生でない指導者で教え方も違ってくる。公民館もそうで、たとえば公民館フェスティバル実行委員会とか公民館の花一杯運動推進部とかを作り、中学校に行って中学生に売り込む。そうすることで、居場所を見つける子どもがいるかもしれない。そういう子どもが卒業して後輩を育てる。その公民館で根付いていくような循環が出来ないかということです。

そこが地域のめざす子ども像と地域のめざす子ども像が寄り添っていけないかということ。

(委員)議長のおっしゃるとおり、部活動に関しては、視点を変えないといけないと思っていて、新たなまちづくりの仕組みがここに表われている気がする。そこで、いかに育てていくか。5年後、10年後を見たときに、その時中学校にいた子どもたちが高校生や大学生になって、いかに地域に残って活動しているか。川西市としては地域に残ってくれたほうがいいと思うが、学校の立場からするとどこででも自分を活かせる子どもになってほしいという思いがあるので、違った視点になるだろうと思う。

資料2の兵庫県社会教育委員協議会の研修会のテーマにもあるように、どういうものがウェルビーイングだろうと話をして、居場所とか自分が存在を認められる場所が多いほど、幸福度が高まるというような研究がされているが、子どもたちの居場所というと、学校や家庭、もしかすると学校にも家庭にも居場所がなくて、居場所の一つに地域であったり、地域で行っている部活動とか、あるいは公民館であってもいいのではと思う。

学校運営協議会の中では、自治会にあるコーラス部にも入ってもいいのではないかとか、麻雀もやっているから麻雀部に入ってもいいのではという、そのような子どもが居てもいいのではないかというような話をしていて、いろいろな人と繋がり、自分の居場所を見つけていけるような社会、後押しできる社会を目指せればと思う。

(委員)居場所についてだが、例えば川西市には、サロンが100ほどある。宝塚市では180もある。サロンといえば居場所で、阪神淡路大震災以後30年の間に数が増えている。それは地域住民が必要だから作ってきたが、今はほとんど高齢者の集まりであるが、子どもたちがそこに加わっていけば大きな繋がりになっていくのではと思う。

(議長) サロンでは、どのようなことをやっているのか。

(委員) 集会所とか個人の家もあるが、面白いところでは学校の多目的室でサロンが行われている。

(議長) 交流広場みたいなものか。

(委員) そうだと思う。こうした形で住民は交流の場、居場所を作ってきてている。そのようなものを活かしていくとかだと思う。

(副議長) 今、委員が言わされたように、世代は違うが、私の住んでいるマンションでも高齢者のサロンはたくさんある。ここに子どもたちが来たらいいと思っている。その中には、子ども向けの書道教室もやられている。

ただ、ほかの人はそこでそのようなことをされていることを知らないので、いろんなツールを使って広報すべきだと思う。その広報にそのサロンに子どもたちも来てもいいんだという広報をすればいいと思う。その一つとして行きやすいのが公民館だと思う。

だから公民館も高齢者向けの講座だけでなく、世代をもっと広くして子どもたちの居場所にという考え方ができるのか。

(委員) 子どもたちが地域に出て行くというところで、本校では、学校運営協議会を中心になって、3小学校区のコミュニティの方から、こういう行事を行うので中学生に協力してほしいという依頼があり、それを集約して中学生全員に募集をかけると割と自分から進んで参加している。

お手伝いだけでなく、企画であったり、運営も手伝っている。今夏も盆踊りに参加して、踊っている姿を見て、子どもたちも何かを求められて、いろいろと声を掛けられることがプラスにもなるので、そういうものでうまく循環していければいいのかと思う。

部活動の話も出ていたが、本校では学校運営協議会が率先して地域移行していくうえで、こんな流れになるということを運営委員を中心にしていただいた。そうすると割とスポーツ21であったり、小学生を指導しておられた方が、そのまま中学生も部活動として見ていくよと手を挙げてくださったので、今も放課後に中学生と小学生が一緒に練習しているようなクラブが見られるので、徐々に進めていけば、地域に根差したクラブができるのではと思う。

コーラスも地域すでに活動されているところが、中学生と一緒にやりますよということで、大人と中学生が一緒に同じ曲をステージで歌っていたというのを実現しているので、少しヒントがあるのかなと思った。

(委員) 1のめざす子ども像というところが難しくて、学校教育の中では、目標が大事とか、めざす子ども像という目標があるというはわかるようなわからないような感じで、一人の親としては、子どもに対して、自分がそこそこ生きたいように生きてくれたらそれでいいと思うので、どうすればコミュニティ・スクールとマッチングしていくのかが、自分の中では腑に落ちなくて、どうしたらしいのだろうと思っている。

5の部活動の地域展開では、5年後、10年後はもしかすればうまくいっているかもしれないけれども、今移行期にあって、立ち上げでうまくいっていない部分もあると思う。

中学校3年間しかないので、そこで犠牲っておかしいかもしれないけれども、そこにいる子どもたちを無視してもいいのかと聴いたりするので、難しいことだと思っている。

移行期の難しさで、子どもたちは本当はどうしたいのだろうか、子どもの声を聴きたいと思っている。

3の公民館の活用のところ、公民館に地域学校協働活動推進員の机を配置するとか、学校に公民館の分室機能を設置するとかが書いてあるが、地域学校協働活動推進員の方の負担が掛かっている。事務局機能を一人で担うのはたいへんなので、公民館と一緒にできるような仕組みがあればいいなと思った。

(委員)公民館の分室機能を学校に置くとすると、おいおい公民館はいらないのではという布石になるような気がするので、非常に危機を感じたので、そういう表現は無い方がいいと思った。

逆に、事務局機能を公民館に置くというのはいいと思った。

子ども像というところでは、教育といえども、そういう形のゴールを社会教育は置くのではなく、ありのままの子どもが作られる、実現させることで十分目標ではという思いはある。

終わりにのところで、学校長の気持ち次第であるというのは、ボトムアップの方がいいと思うので、公的なものとして書くのはいかがかなと思う。

(委員)学校と地域のWinWinの関係で、学校は防災拠点で地域はそこまでのことはできないので、学校側の特色として防災拠点として何か取り組みができないかと思う。

(委員)兵庫県社会教育委員協議会の研修会の資料の3ページにあるような生涯学習社会の構造というものを出していかないといけないんだろうと思う。今回、「川西市学校運営協議会制度への社会教育の関わり方」という形でテーマが出され、審議しているので、学校運営協議会に社会教育がどう関わるかという話になるが、社会教育の中に学校がある形なので、学校はどのように地域と関わる。そこで子どもがどう関わる、大人が子どもにどう関わるかというような話になっていく。

しかし、横の繋がりしか見えないので、議長がおっしゃる縦の繋がりというところを、イメージはないが、そのような繋がりになっていかなければいけないんだろうと思う。

(議長)教育長から「学校運営協議会制度への社会教育のあり方」というものをどう読み取るか。川西の社会教育を進めるうえでコミスクとどう関わるか。そういう立ち位置でいいと思う。

コミスクを推進するのに社会教育は何ができるのかではなく、川西市に住み続けたいというまちづくりを進めるという目標があって、それを進めうえでコミスクにどう関わるか。コミスクをどう使うかというスタンスでいいと思う。

時間が参ったので、4の議題については以上とする。この議題に関しては、次もあるのでもう少し膨らましたものをお示しして協議していけるよう作業を進める。

次に、5のその他ですが、委員の皆様から何か情報提供があればお願いする。

無いようなので、事務局から連絡事項をお願いする。

(事務局)本日、ご審議いただいた内容については、引き続き継続審議ということになりました。

次回の会議につきましては、12月頃を目処にしている。会議開催に当たっては、日程調整等をさせていただく。

本日、頂戴した委員のご意見をもとに、審議報告案をさらに肉付け、修正しまして、改めて次回の会議までにメールでお示しさせていただく。

(事務局)兵庫県社会教育研究大会が11月26日に開催されるが、人数制限があるため議長、副議長に参加していただく。その内容については、第2回の社会教育委員の会で報告していただくことになる。

(議長)11月26日は2名という縛りがあるので、議長と副議長で参加する。内容は、同会にて報告する。

兵庫県社会教育研究大会では、分科会で阪神北地区が発表者になっており、各市町から報告をすることになっている。

それでは、以上で終わらせていただく。

委員の皆様、傍聴の皆様、ご協力をありがとうございました。